



県東部4Hクラブ連絡協議会
冬の大会意見発表の部で優秀賞

大鷹4Hクラブ所属

村松辰巳さん
久沢北(22歳)

以後、お母さんの近子さんと茶畑百二十坪と山林六〇坪を守っています。お茶の忙しい五・六月は、日曜日もなく、本業を終えてから手元が見えなくなるまで働きます。今回の意見発表は、そんな中で助けられた人との出会い、農業のすばらしさを訴えたものです。村松さん自慢のお茶は、とても深みのある味でした。

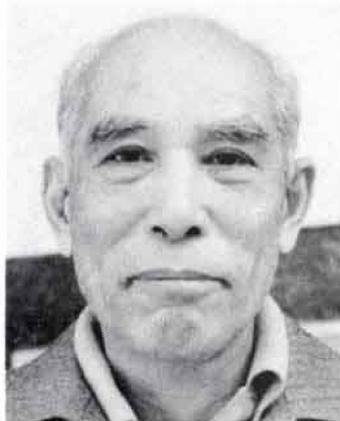


村松さんは若手農業経営者で組織する4Hクラブの中で、数少ない兼業農家の一人。ふだんは製材所に勤めています。農業に従事する両親の姿を見て「小さいころから誇りを感じていました」と話す村松さんは、中学卒業後、

浜松市にある県立農業経営高校に進みました。お茶を専攻し、専業農家の設計図が完成した高二のとき、お父さんが急逝。長男だった村松さんは、いや応なしに一家の大黒柱となりました。当時、弟と妹は学生、畑の面積も専業でいくには狭すぎたことから、設計変更を余儀なくされました。

まちか

我がまちを語る



赤渕秀心さん

神戸1丁目(62歳)

画期的な小学校の独立
神戸地区は水道が引かれる昭和二十七年まで、畑作中心の農家の多い寒村でした。戸数にして三百戸ぐらいだったと思います。それが、水道の普及、道路の拡張、マイカーの増加などから開けてきました。昭和四十六年に富士

見台団地ができてからは、ベッドタウン化が進み、今では約千戸を数える地区となっています。このように発展してきた理由は、先人の教育に対する理解をあげることができず。終戦後、物なかつた時代に、当時今泉小学校の分教場だった神戸小学校を独立させたことは画期的なことでした。現在の住民は、やや引込み思案ながらもコミュニケーションのあるのが特徴です。青年団も他地区に比べて盛んで、地域の活動に貢献しています。今後もベッドタウン化は進むでしょうが、歴史と文化財を大切にすする街になってほしいと思います。

あの人の人ごんなこと

青春をボランティアに

野村幸人さん(神戸11)



一カ月のうち約十日間は市内のいろいろな福祉施設を訪問し、ボランティア活動を続けてきた野村君(吉原商業高校三年)。昨年八月まで、学校を超えた高校生ボランティアサークル「クレープ」の代表として活躍しました。現在は、福祉関係の大学を目指して受験勉強中。次のステップが期待されるヤングです。

月一冊頭に栄養

吉田静江さん(二色)



吉田さんは昭和五十六年から二色で「杉の会」という読書会を続けています。会員は三十代から六十代の女性九人で構成され、毎月第二木曜日の夜、神戸公民館で例会を行っています。月一冊のペースで読み始め、現在六十七冊目。読後の感想はしばしば自分の実験と重なることから、例会は脱線ぎみ、とてもにぎやかです。

最高齢のマラソン選手

秋山次郎さん(今宮)



秋山さんは神戸地区で「今宮のマラソンじいさん」と呼ばれています。というのも、地区の体育祭では最高齢(七十七歳)のマラソン選手として出場しているからです。若いころからスポーツは万能で、今も山を歩いたり、野良仕事をしたり健康そのもの。ましてや腰は曲がらず、目も耳も丈夫で「若い者にや負けないよ」は真実です。

